

## 2 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録 （ 要 点 ）

日 時	令和6年2月26日（月）10時02分
場 所	庁舎第3別館2階 会議室
出席委員	教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 長井俊朗 委員 竹田美和、委員 野間真美
会議に出席した者の職・氏名	教育政策局長 正岡靖彦 教育大綱推進課長 鳥生幸司、学校教育課長 井上洋、 生涯学習課長 畑紀輔、学校給食課長 阿部孝文、 教育大綱推進課長補佐 崎山憲一
傍聴人	報道1社1名、一般1名
議 題	議案 議案第1号 今治市教育委員会基本理念及び学校教育の指針 について 議案第2号 令和6年度学校教育の重点方針について 議案第3号 令和5年度教育費補正予算に係る意見聴取につ いて 議案第4号 令和6年度教育費予算に係る意見聴取について  その他1 寄附採納報告について その他2 今治市子ども読書活動推進計画の指標の報告につ いて その他3 給食費の見直し答申の報告について
小澤教育長	午前10時02分、開会を宣す  日程番号1、1月定例教育委員会の会議録を承認してよいか問 う
一各委員一	承認する
小澤教育長	日程番号2、会議録の署名委員に、山本委員、長井委員を指名 する。

小澤教育長	日程番号3、教育長報告を行う
	質疑がないか問う
竹田委員	ふるさとキャリア教育の発表大会が、すごく内容の良い発表会だったと聞いています。同じような機会があるならば、ぜひ拝見させていただきたいと思います。
井上学校教育課長	オンデマンド配信等でご覧いただけないか確認します。
	<議題審議>
小澤教育長	「議案第1号 今治市教育委員会基本理念及び学校教育の指針について」説明を求める
鳥生教育大綱推進課長	—「議案第1号 今治市教育委員会基本理念及び学校教育の指針について」説明—
小澤教育長	質問がないか問う
—各委員—	質問なし
小澤教育長	承認してよいか問う
—各委員—	承認する
小澤教育長	「議案第2号 令和6年度学校教育の重点方針について」説明を求める
井上学校教育課長	—「議案第2号 令和6年度学校教育の重点方針について」説明—
小澤教育長	質問がないか問う
野間委員	施策1の、先進校等と連携を図るといふところの先進校というのは、主に市外、県内と考えられていらっしゃるのでしょうか。
井上学校教育課長	ここでは、筑波大学附属小学校との連携を、数年前から続けています。職員を派遣して学んだり、また、先生に来ていただいて授業をしていただいたりという交流をしておりますので、具体的

には筑波大学附属小学校です。

野間委員

施策17ですが、小学校ではふるさと今治に、誇りと愛着を持たせ、というところですが、転校生の子は今治市に来てすぐ、他の地域にまた行ってしまふなど、必ずしもずっと今治市の生徒さんだけではないと思いますので、持ってもらふようとか、そういう表現はどうかと思いました。

井上学校教育課長

表現の方法を工夫してみます。

小澤教育長

表現と主語を指導者の立場にするのか、児童生徒の立場でいうのかによってまた表現も変わってくると思いますので、そういったところを検討させていただきます。

山本委員

よくまとめていただいたなと率直に思いますが、これに書いたことを、いかに現場で実践してもらふかという観点で、実効性を高めるために、測定できるようにして、具体的にどうするかというところに落とし込んでいかないといけないと思います。

新年度予算では、システムのクラウドの対応はできてないように拝察をいたします。新学習指導要領を行うために、文科省の方から出されている施策のほとんどがクラウド対応ということを前提に出ています。具体的に言うと、ロイロノートを有効に実行するためには、クラウドではなく、オンプレミスでは、運用が限られ、コストパフォーマンスが非常に悪く、ひいては生徒の学力にも影響してくると思います。

また、学校の先生方の働き方改革1つにしても、校務支援システムも、オンプレミス型の対応だと違うのです。保健、学籍、学務から校務、すべてのグループウェア全体を、統合型校務支援システムなどを導入していかないと、先生方も精一杯の今の状況の中で、ICT化を実行するにはICTのリテラシーも上げていかないといけないし、探求型の学習や、伴走型の指導方法に変えていかないといけない。先ほどの筑波大学附属小学校の指導方法は、本当に違います。

クラウドかどうかというのは、致命的なところになると思われるので、何とかクラウドの対応をお願いしたいという意見です。

鳥生教育大綱推進課長

ご承知の通りクラウド型につきましては、教育委員会からは、予算要求はして参りましたが、査定の段階で、オンプレミスを続けるべきということでオンプレミス型の方のサーバーの更新経

費をつけていただくようになりました。

理由は、愛媛県内において、クラウド型を採用しているのが、いまだ西条市だけということで、他市も確認したところ国の動向を確認した上で、改めてクラウド型を検討するという状況でした。そのため、今治市も、クラウド型の方が、長期的な予算額で少し高くなるということで、今回は見送りとなったという状況です。

山本委員

国の動向は、文科省などの通達には、はっきりオンプレミスではなく、クラウドを前提にとわざわざ書いているぐらいですから、決まっているはずなのです。そして、値段が高い安いという議論をされますけど、サーバーを度々に、バージョンアップしていく、買い替える、あるいはサーバーを管理する人件費とか、プログラミングするときの開発費用とか、そういうことを足していって、簡単に初期投資だけで比較したら絶対いけないと思う。ましてや教育という、それで学ぶ子どもの能力のレベルアップを値段に置き換えることはできないと思う。

そして、愛媛県は、非常にいろんな面で遅れていると認識しています。全国有数の学校教育を目指すというふうに表明している限り、下方比較したらいけない。最低、全国のレベル平均以上を目指してもらわないといけない。だから、主張の根拠としては、非常に納得いかないという意見です。

野間委員

やはり、オンプレミスとクラウドで、何事にもメリットとデメリットがあるんですが、クラウド型について調べてみると、サーバー攻撃に遭いやすいことを知りました。私も総合教育会議でICT化を進めてくださいと言いましたが、今日は、気をつけてくださいと言おうと思っていたところです。

ランサムウェアで狙われた企業の大変な話を聞きまして、パソコンを使用するすべての業務ができなくなるそうです。それこそ会社のカード履歴なども見られないし、お客様にも迷惑がかかる。日々、無事に終わることのありがたさを、ひしひし感じるぐらい、システムのサイバー攻撃っていうのは大変なことだと思います。納得いかないままとか不勉強のまま進めちゃうと、いろんなところに支障が出るので、慎重にしないといけないなど。いろいろな方に聞いた話がありますので、セキュリティについてどうなのか教えていただきたいと思います。

山本委員

クラウドの場合には、クラウドに対するセキュリティは当然し

ていかないといけません。セキュリティポリシーの見直しから含めて、当然やっていかないといけないことですね。

野間委員

クラウドだと、カスタマイズがオンプレミスのようにできないので、全部影響を受けると思っているのですが。

長井委員

私も、教育委員会でその作業に関わってきましたが、分離するのはそこが一番の理由です。

企業でも時々、いろんな問題が起こっていますが、生徒の個人情報や絶対安全にしたいという心理が働いて、それがいつまでもクラウド化ができないという原因になっているんですね。野間委員のおっしゃったように、リスクを負ってとび込んで問題が起こった時のことを考えてしまう面があるので、そこを乗り越えていくためにもセキュリティ対策が必要だと思います。

現状では多くの自治体や学校がそこに踏み込めない。いくら注意していても問題が起こるのは仕方ない面があるのですが、かといってそれで手をこまねいて前に進まない状況は変わりませんので、山本委員がおっしゃったような、問題意識を持ち続けながら、ぜひ良い方向に進むためにはどのようにしたらいいのかということを考えていけばいいのではないのでしょうか。現に今やっているところもあるのは事実ですし、効率がよくなるのは間違いないので、いろんな教育現場にとって一番心配なセキュリティ対策を今後考えていただけたらと思います。

もう1点、私も大学生に論文指導をしているのですが、ChatGPTとかの生成AIの利活用について、3つくらいの単語を打ち込んだら、例えば、高等学校、国語部会、重要事項とか、挨拶、千字とか打ったら、ものの10秒か20秒で綺麗にできてきます。同じものは二度と出てこないです。つまり読書感想文などの指導が、根底から変わるのではないかと思います。千字ぐらいのものはもうあっという間にできて、それを原稿用紙に手書きするだけの時代になってきている。生成AIが入ってきたことによって、それぞれの現場の教育で、このような新しいことが出てきてしまっているのです、その辺に対する認識を整理しておいた方がいいのではないかと思います。

山本委員

意見はいろいろあると思うのですが、私が大学生の時に運転免許を取るときは、その当時の時代背景は、道路も悪いし、車に乗ったら危ないことが先にたって、運転免許を取らない人もいました。その後、車の免許を取らなかった人は就職にまで影響するよ

うな状況をつぶさに経験をしました。

やはり教育のやり方が、生成AIが出たことによって、相当変わってきており、避けて通れない問題ですから、セキュリティの問題は絶対あるので、当然それをクリアしながら、きちんとやっていかないとという立場ですし、そのような考えで先ほどの意見を申し上げました。

また、このサーバーの耐用年数の間は、クラウドを使わずに現行のままやっていかないといけない。市長がいつもおっしゃっている学校の教育の時間軸を考えて、生徒はもとには戻れないことを前提に対応していかないと駄目だということをもう一度申しておきます。

竹田委員

私も長井委員がおっしゃったようにChatGPTの読書感想文は、すごく気になりました。情報モラル等の基本的なルール・マナーを発達段階に応じて計画的に指導しますを項目に入れていただいたこと、保護者としてすごく感謝します。

SNSの使用についても、今、小中学生でもYouTubeやTikTokをアップしている子がすごく多いと思います。人気中学生YouTuberなどに、今治の子も憧れて、友達同士で、近所の公園などで撮影したものをYouTubeに流している子もいるので、住所を特定させないとか、それにあわせて、著作権等のことなども考えずにSNSアップして損害賠償を求められたりして大変になることなどの、SNS上での注意事項について、きちんと指導していただけたらなと思います。

6ページの施策15の防災について、先日の研究所の発表でも保護者の認識がすごく低かったと思っています。その中で、大西中学校さんの発表では、上手くコミュニティスクールを活用されているなと思いました。防災というのは、コミュニティスクールを活用すべき内容であると思いましたので、そういった地域ぐるみの取り組みに、コミュニティスクールという言葉を一言入れたら、わかりやすく活用できるのではと思いました。

小澤教育長

冒頭のクラウド化の活用につきましては、今年度、山本委員をはじめ各委員から、教職員の働き方改革のために、また子どもたちにとって、より良い教育環境を整えるために大変必要であるということをお話しいただき、教育委員会でも今年度検討して参りました。

優先順位からすると、やはりそこが一番ではないか。始める上で、そういったいろいろなリスクもお話しいただきましたが、始

めるとなった後に、運転免許取った後にどういう安全運転をするかといったところも必要になってくると思います。今後また検討して参りますが、今年度、山本委員さんからいただきましたご意見は、教育委員会では十分検討して参りましたこと、そういうところも努力をしておりますというところもご理解をいただきまして、これからも継続して、そのことにつきましては、また、取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

長井委員

現場の生成A Iは、小中はあんまり入ってきていないんですかね。もう絵まで書けるようになっていきますよね。

野間委員

生成A IとかC h a t G P Tはすごいと言われますが、出始めの頃に、私もわかるもので調べようと思い「今治市」を調べました。そうしたら「しまなみ」があるとか出てくるのですが、なぜか今治市には、伊方原発や道後温泉があつてと出てきました。今は精度が上がっているかもしれませんが、曖昧なものは、確かに文章ができてすごいなと思うのですが、細かいところでは違うことがあるので、活用はするけど、使用は難しいと思いました。

長井委員

私も来年『坊っちゃん』を教えるので、『坊っちゃん』って入れたら井伏鱒二のと出てきました。フェイクも含めて、こういうもんだということを理解していないと、それが本当になってしまいますから。どちらにしても教育現場でも避けては通れない道で、小学校低学年くらいから、ますます加速度的に状況は変わっていくと思われまふ。大体は年齢が高い者が時代から取り残されますので、すごいスピードで、現場がそうなっているという認識を持って、いろんなことを考えていった方がいいということをご共通理解しておきたいと思っております。

小澤教育長

昨年度、初めに、愛媛大学教育学部の評議員会でC h a t G P Tの取り扱いについて、どういうふうに考えていますかというようなことを質問しましたら、学部長の方は、まだ現時点では考えていないというようなことでしたが、この1年間で、学校教育現場等にもかなり進んできているのではないかと思います。これが義務教育の方にも、十分影響してくると思いますので、今後、各現場での活用状況等について把握して、また対応を考えていきたいと思っております。

長井委員

追加しますと、大学はそのC h a t G P Tを使っていろんなパ

ターン作って、どう違うかというような授業が始まっています。ですからキーワードの入力の仕方によって、文章がこう変わってくるんだよというレベルで動いています。本当に動きが早かったですので、繰り返し申し上げておきたいと思います。

竹田委員                      ここでいうC h a t G P Tの指導っていうのは、使いなさいという指導なのですか。それとも、これを使って宿題をしてはいけないよっていうような指導をするのですか。

井上学校教育課長            今現場では使っておりませんが、これからの時代に対応していくよう、基本的なモラルや考え方を教育していきます。まずは理解をさせ、それから正しく使えるよという教育を今から進めようという段階であります。

竹田委員                      去年、C h a t G P Tで夏休みの読書感想文を提出したというニュースか何か問題になっていたかなと思うので、小中学生に対する指導としては、それで宿題を済ませてはいけないよというよなモラルを教えていただきたいなと思います。

小澤教育長                    これから必要になってくると思います。

山本委員                      情報、倫理教育というようなことで、当然、並行してやっていたかなければならないでしょうね。

長井委員                      使ってみたいというのは人間の心理だから、子どもに駄目だと抑えることは難しい。悪いことも認識した上でどうするのかという発想をしていく必要がある。

小澤教育長                    我々大人も色々な話をする機会などに、参考になるようなものをネットで検索して繋いでいきますよね。そこの繋ぐところとか、キーワードをどういうふうにしていくかってこういったところの、これからの時代は上手に利活用してことは、これもこれからの、より良く生きてくる力、スキルになるのではないかなと思われま。そういったところについてのモラルについてはまた、学校現場の方に周知していくようにしてまいります。

山本委員                      今まで学校の先生が、夏休みの宿題なんかも、お父さん、お母さんに教えてもらったり手伝ってもらったらいかんと言っていたが、手伝ってもらっているのと同じことですね。

小澤教育長 今でも、小学校の低学年で、これは家庭で手が入っているなどというのは、評価する時に、専門の先生から家庭の親御さんの手が入っているねっていうようなところとか、そういったところはわかるかと思いますので、同じようなことが言えるのではないかなと思われま

他にないか問う

—各委員— 意見なし

小澤教育長 承認してよいか問う

—各委員— 承認する

小澤教育長 「議案第3号、令和5年度教育費補正予算に係る意見聴取について」説明を求める

正岡教育政策局長 —「議案第3号、令和5年度教育費補正予算に係る意見聴取について」説明—

小澤教育長 質疑がないか問う

—各委員— 質疑なし

小澤教育長 同意してよいか問う

—各委員— 同意する

小澤教育長 「議案第4号、令和6年度教育費予算に係る意見聴取について」説明を求める

正岡教育政策局長 —「議案第4号、令和6年度教育費予算に係る意見聴取について」説明—

小澤教育長 意見がないか問う

—各委員— 質疑なし

小澤教育長	同意してよいか問う
—各委員—	同意する
山本委員	クラウドの件は、なお意見があったと添えといてください。
正岡教育政策局長	<p>山本委員からいただきましたクラウドの件につきましては、我々教育委員会としても、クラウド型に向けて予算化を目指しておりました。野間委員、長井委員ご指摘のセキュリティについても、当然合わせて検討していく必要がございます。</p> <p>やはり働き方改革の側面や、国のガバメントクラウドのそういった全体の流れの中において、予算化できませんでした。教育委員会としては引き続きその安全を確保した上でクラウド化を進めていく方向で、今後も、例えば中長期財政計画に反映する形で、進めてまいりますのでご理解いただきたいと思います。</p>
小澤教育長	「その他 1 寄附採納報告について」説明を求める
鳥生教育大綱推進課長	—「その他 1 寄附採納報告について」説明—
小澤教育長	質問はないか問う
—各委員—	質問なし
小澤教育長	「その他 2 今治市子ども読書活動推進計画の指標の報告について」説明を求める
畑生涯学習課長	—「その他 2 今治市子ども読書活動推進計画の指標の報告について」説明—
小澤教育長	質問はないか問う
野間委員	<p>読書の楽しさについて、思いついたんですが、もし今後今治市でクラウドを利用できることになったら、今、生徒さんは読者の楽しみってというのは感想カードを書いたり、先生が張り出ししたりとかしていると思うんですけど、いろんな学校でお互いに感想を見れるようにしたら、読書感想文に載るような子以外でも、意見を交換できたりしてより楽しさに繋がるんじゃないかなと思いました。</p>

また、不登校や学校に行きづらい子ども本を読むのは好きな子もいるかもしれないので、その本を読んだ子どもたちの、感想の触れ合いとかもできるかと思います。意見交換も本の楽しみの1つではないかと思うので、そういうのも目指していったら、先生の負担が増えずに、子どもたちの読書が促進されるかなと思いました。

畑生涯学習課長

今年度から、図書館でも各小・中学校にIDを配りまして、電子図書館が見れる状況になっております。

先ほどおっしゃっていただきました、子どもさんが感想文を共有できるようなシステムですが、学校図書館とも情報共有しながら、今後、良い方法を検討していきたいなと思っています。

小澤教育長

「その他3 給食費の見直し答申の報告について」説明を求める

阿部学校給食課長

—「その他3 給食費の見直し答申の報告について」説明—

小澤教育長

質疑はないか問う

野間委員

この今治市の給食のよさを、今治市の方にわかっていただくときの説明で、1の(1)と②の(6)の説明の中で、安全安心で地元産品をとるんですけど、(1)だと。地元産品だから安心、安全安心なわけですよ。

生産者の顔が見えて、物流費も近距離なので、排気ガスが少なく、短時間で、送ることができる。地域の産品を、理解しながら給食で、食べるっていうこと。安全安心で地元産品じゃなくて、安全安心な地元産品というところをよくわかっていただかないと、安全安心が先に来るわけじゃないですよ。地元産品を使うから、安全安心なわけですよ。なので、わざわざ大量生産で全国に出回っている野菜を使わずに、なぜ地元を使っているかっていうこともわかっていただかないと、その食べる生徒の健康と安全、そして、地元の生産者が理解できるような素材を使っている。その地域の環境も、排気ガスとか、そういう輸送のことで、地域も守ることができる。強いては、子どもたちが食べる今日の給食は、地元ですよって言ったら、愛媛県とか四国はこういう素材が育つ。でもやっぱり、北海道の方の素材使うときはこの辺では育たないなっていう勉強になるっていうことも取り入れていると思うので、そこがわかるように、安全安心で地産地消ではないと思うところが。この審議会は、こちらではないとは思うん

ですけど。

山本委員

それは、今も委員がおっしゃったように、この発信主体は、今治市学校給食運営審議会が主体だから、主体のお考えを正確に言葉として捉えて答申案として、これのできたのだから、それをこちらの方で直すことは出来ない。

野間委員

できないですけど、今治市教育委員会として発信する時には。

小澤教育長

そこで、教育委員会としては理解をしておく必要があるかと思われま。

阿部学校給食課長

ありがとうございます。「地元産品を使うことによって安全安心な」ということです。

要は、委員さんの言われる通り、生産者の顔が見える、安全安心な野菜を提供するという、地産地消を推進するというので、そういうふうに学校給食課としては考えております。

ただ、この附帯意見につきましては、審議会の会長の方からいただいておりますけども、実際に考え方は、地元産品を使うことによって生産者の顔が見える、言われる通り、地元産品を使うことによって、地域のローカルマーケット、強いて言えば、遠くから運ぶよりも、排気ガスも当然、その辺も考えております。

食育を図る上では、子供たちがスーパーに行って、見て、例えば、愛媛県産とか、北海道産とか、中国産とかいうところをちょっと見ていただきたいということもございまして、そういうふうな食育に努めて参りたいと考えております。

野間委員

地元産品だけを使うと、コストアウトになることもあると思うので、その辺をいろいろ組み合わせているっていうところを、わかっただけに伝えないといけないかなという意味です。

小澤教育長

ありがとうございます。

優先順位からすると安全安心な給食の提供というのが一番かと思えます。その中に、地産地消も含まれるという捉えで、安全安心がどこの文にかかるかといったところまた確認して。

正岡教育政策局長

教育長が言われる通りなんですけど、文章として、地産地消を推進するということが、どこにかかっていくことはありますが、基本的には安全安心な給食っていうことがまず大事なので、それ

は当然衛生マニュアルの徹底であるとか、いろんなことを含めての意味合いもございますので、おっしゃる通りです。

竹田委員

この運営審議会は、2時間以上にわたる大変な会議だったと聞いています。

主に給食費の値上がりについての審議の会だったと思うのですけれども、また以前からずっと言っている一律化っていうところも考えていただいてありがとうございます。

先日、上島町の教育委員から、今治市のオーガニック給食は、すばらしいですねっていうお褒めの言葉をいただきました。「私たちもその真似をしたいのだけど、なかなか真似ができない。すばらしいと思います。」と仰っていただいたので、今後も安全安心で、また地産地消のおいしい給食の提供をよろしく願いいたします。

学校給食課長

農林水産課とも連携しまして、有機食材を活用した学校給食の食材提供として、今年は1回だけでしたが、来年は2回か3回できるように予算を計上しております。

これにつきましては学校給食費の予算ではございませんけども、農林水産課の予算として地産地消の補助金として出ております。例えば深海魚を食べる、メルルーサを食べるお金で、マダイが食べられるように補助金をいただいていますし、今治の小麦を使ったパンは、結局カナダ産の小麦との差額をいただいととか、色々いただいていますので、その辺を、皆さんに周知していきたいと思います。

小澤教育長

他にないか問う

—各委員—

意見なし

小澤教育長

午前11時27分、閉会を宣す